

# 教育文化功労

## さ さ き ゆ き お 佐々木 幸男 氏



10年以上に亘り、  
国立市テニス連盟及び国  
立市体育協会で活動している  
方。体育協会では、常任理事と  
して事務・会計処理に手腕を発  
揮するほか、協会の事務のIT化  
を積極的に行い、内部的な効率  
化の面から市のスポーツの振  
興・発展に貢献している。

「テニス連盟に加入したきっかけを教えてください。」

元々学生時代は剣道をやっていて、社会人時代は仕事のかたわらで子供に剣道を指導していました。その後海外赴任をきっかけに剣道から離れ、何か別のスポーツに触れたいと思っていた折、現地の人との交流を通じてテニスを始めました。

帰国して滋賀県に赴任してからも、会社のテニス部に所属して活動していました。その頃、県のテニス連盟に所属されていた上司が仕事の事情で連盟から離れることになり、連盟を引き継ぐ人を探していたので、引き受ける形でテニス連盟に加入しました。活動内容には子ども達への指導員の免許も取得しました。

その後、定年前に国立市に引っ越し、退職と同時に市のテニス連盟、体育協会へと加入し、現在に至ります。

「連盟加入前より子ども達へ運動の指導を行っていたとのことですが、佐々木氏にとって「指導」とはどのようなものでしょうか。」

「教える」とを通じて自分が「教えられる」ことが多いので、「指導」とは一方的に何かを与える行為ではなく、相互的に高め合える機会と考えています。

剣道の指導をしていた時代に、子ども達から「上座・下座とは何か」「日の丸の国旗に一礼する意味は何か」という質問を沢山受けました。これ

まで自分が何も疑問に思わなかった行為の意味や理由を聞かれると、相手が理解できるように説明するために今一度ひとつひとつの行為の意味を勉強するので、改めて自分の気持ちが引き締められるのです。

「ボランティアで子ども達の指導や地域貢献することについてどのように考えていますか。」

私自身が幼少の頃、部活の先輩や、父の職場の方などから、運動や運動にまつわる礼儀的な部分について沢山教わってきました。その頃に習った、先輩から受けた恩恵は先輩に返すものだ、という教えは、今ボランティア活動を通して若い世代に還元していきたいという気持ちの根底にあると思っています。その意味で、社会に出てから子ども達に運動を教える活動や、連盟に加入して地域スポーツに貢献するという活動を始めたのは、思い切った行動というより、自然発生的な行動でした。

「体育協会での活動について教えてください。」

主に内部資料等の電算化による作業の効率化・合理化の推進に努めました。それまでの体育協会は、案内状の宛名書きから会計管理まで、何をするにも手作業だったのです。私は電気系の専門分野で働いていたことから、コンピュータ言語等も少しわかっていたので、それらを電子化するところを中心に業務に取り組みました。

その後ホームページの開設や、議事録のインターネット公開など、体育協会の事業について一通り電算化の基盤を整えることができましたと思っています。

テニス連盟でも電算化に努めました。大会の対戦組み合わせやシード権については、人の手で決めると私情が少なからず介入し、適切かつ公平な組み合わせが実現できない可能性があります。これを、選手別の戦績等のデータを基に自動計算をして組み合わせを行う仕組みを作り改善を図りました。

「今後の活動について教えてください。」

今は東京都多摩障害者スポーツセンターの方と共に、障害者の方がテニス競技に触れる企画を検討しています。球を打つことを体験して、すべての人にテニスの面白さを感じてもらいたいと思っています。

「最後に一言お願いいたします。」

先日、昔指導していた子から、整形外科を開業した、という連絡をもらいました。腰の治療がてらその子を探ねに伺うと、立派に成長したその子の姿に驚きました。昔話に花が咲きながら、大人になってからも交流ができることを喜ばしく思いました。この活動を通じて、沢山の人の成長に携わり、他では得られない強い絆を生み出すことができたと思えています。